

宮代町郷土資料館だより

えんがわ

第8号

企画展「ひなまつり」より

おひなさまと浮世人形

三月三日はひなまつりです。女の子のいる家ではひな人形を飾り、草餅などを作って祝います。

ひな人形は形代（かたしろ。紙を人の形に切ったもの）にけがれや厄を移して川に流したことに始まります。

この形代が次第に変化して、江戸時代初期には紙のひなとして飾られるようになりました。現在のように内裏びな・三人官女・五人ばやしなどをひな壇に飾るようになったのは江戸時代中期からです。

また、この頃からひな人形と一緒に浮世人形も飾られるようになりました。浮世人形は能や歌舞伎や伝説などの題材から作られたものです。

ひな人形や浮世人形は、女の子が生まれて初めて迎えるひなまつり（初節供）に際して、嫁の実家や親戚から贈られ、浮世人形は親戚や近所の人から贈られました。

郷土資料館では毎年ご好評をいただいている企画展「ひなまつり」を、平成9年1月29日（水）から3月23日（日）まで、開催します。今回は、旧斎藤家と本館の二ヶ所にひなまつりに飾られる人形を展示します。おひなさまの他、「神武天皇」、「学生」、「花咲かじじい」などの浮世人形も紹介します。これらの人形は、人形の作られた当時の風物や世相を知る上でも大変興味深いものです。



平成9年1月12日、郷土資料館の旧加藤家の土間において「講座 ハナとまゆ玉団子作り」が行われました。講師に町内にお住まいの青木佐太さんを迎えて、小学生から大人の方まで、13名のご参加を得て行われました。

ハナとまゆ玉団子とは、小正月の供え物です。1月14日、農家ではこれを作って、家の神様や仏様に供えます。ハナはニワトコの本を削って花のように作ったもので、まゆ玉団子は団子をケヤキの枝にさしたものです。この行事は「今年も豊作になりますように」という願いを込めて行われます。



《ハナとまゆ玉団子作りに参加された皆さんのひとこと》

ハナ作り

- ・ちょっとむずかしかったけど、よくできてよかったです。
- ・はじめて見ました。
- ・ゆびをきらないように気をつけてやりました。

まゆ玉団子

- ・ピンクや白の色がきれいでした。
- ・みんなといっしょに作って、とてもよくできてよかったです。
- ・3cmほどの大きさにまるめるのがむずかしかったけど、たのしかった。
- ・おだんごがおいしそうだった。

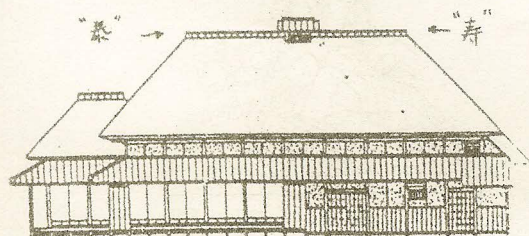
これ何だべな？

旧加藤家屋根に書かれた文字のなど

かやぶ

旧加藤家の屋根が茅葺きであることは、みなさんもよく知っていることです。見上げると、屋根のうだつや茅の間から、カマドで火もししている煙がでていて、つい見とれてしまいそうな景色です。

でも、ちょっとまって。屋根の両方のはじっこに、何やら文字らしきものが書かれているではありませんか。目をこらしてよく見ると加藤家に向かって左側には「泰」が、右側には「寿」という文字



右側

「寿」



が書き込まれています。そういえば水、龍などの文字が書かれていたところもありました。いったいなぜなのでしょう。

日本の家は、材料に木や茅など燃えやすいものが使われています。そのため人々は火事を大変恐れました。泰、寿などの文字はめでたい文字（吉祥文字）であり、水、龍などは火伏せのまじない文字として火事を防いでくれるものとされていきました。加藤家に書かれた文字も、大事な家を守るおまじないだったのです。

金原地区で縄文時代の遺跡 発掘！！

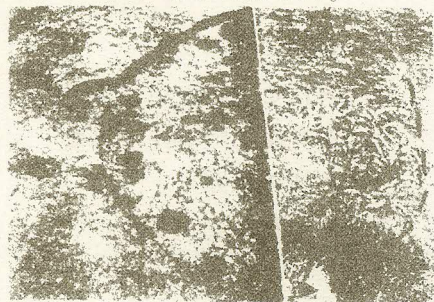
今年10月から、平成16年埼玉国体アーチェリー場予定地の造成に伴う金原遺跡の発掘調査が開始されました。

現在までに、約4000年前から約3500年前までにかけての土器や石器、人々が生活した竪穴住居、食べ物を調理した場所である炉穴（炉址）、土器を捨てた穴などと考えられる土坑（どこう）、土器を1個体土中に埋めた埋甕（うめがめ）などが発掘されています。

＜竪穴住居＞

縄文時代の竪穴住居が3軒確認されました。

約4000年前の1号竪穴住居は、工事範囲の関係から全体の半分しか調査はできませんでしたが、壁際に沿って柱穴が9本、中央部に2本検出されています。柱穴の多くは、竪穴住居内側に傾斜しており、詳細な研究を行えば建物の高さなども判明するかもしれません。



1号竪穴住居

2号竪穴住居も工事範囲の関係から一部しか確認されていませんが、この住居は、時期は異なりますが、前原遺跡でも検出された柄鏡（えかがみ）型をした竪穴住居と考えられ、今回の調査では柄の部分のみ検出されました。柱穴も3本確認されています。



1号埋設土器

＜埋甕と石棒＞

約4000年前の埋甕2基が確認されました。

1号埋甕では、埋甕とともに石棒も検出されています。石棒は、一般的に儀礼的で神聖なものであると考えられています。今回発掘された石棒は、上端と下端が折られている上、埋甕と一緒に出土したことから、何らかの信仰的な要素が強いものと考えられます。

埋甕は、人骨を埋葬した墓、あるいは竪穴住居の出入口部分にある場合は、幼児や出産時の胎盤などを埋めたと推定されています。

＜まとめ＞

今回の調査は、金原地区初めての発掘調査でしたが、貴重な遺構や遺物が発掘されると同時に、当時の人々の生活空間の一端も明らかとなりました。約4000年前に住んでいた人々は、やや高い場所に住んでいたようですが、約3500年前になると、比較的低い所へと生活の舞台を移していったようです。

今後、運動公園部分の調査を行なうことによって金原地区の原始古代の歴史がさらに明らかになると考えられます。

資料寄贈者名簿

平成8年10月から平成9年1月までに民具や古文書等の歴史資料を寄贈していただいた方は、下記のとおりです。厚くお礼申し上げます。

ご寄贈いただきました資料は今後、企画展等でご紹介させていただきます。

(50音順・敬称略)

小島喜美 民具

小島隆男 民具

成田秀雄 民具

今後も、昔を語る様々な資料を収集してまいりますので、ご協力の程、お願い申し上げます。

コラム—クルミの木—

◆冬が来たと思ったら、いつのまにかカレンダーは1997年。今年はどのような年になるのでしょうか、また新しい出会いがあるのでしょうか。◆今年の冬は暖冬といわれています。豪雪地帯で有名な新潟県の湯沢に年末にスキーに行ってきた。私達が訪れたスキー場は積雪が40センチぐらいしかなくてゲレンデの上の方は土が見えていました。他のスキー場では雪が全くない所もありました。でも冬はこれからです。かぜは万病のもと。かぜをひかぬよう「熱があるな」と感じたら暖かくしてすぐ寝ましょう。◆今年も郷土資料館は企画展をはじめ、体験学習などの各種講座、かやぶき民家で昔話を聞く会などを行います。子供から大人まで楽しめてためになる講座にしていきたいとおもいます。今年も宮代町郷土資料館をどうぞよろしくお願いいたします。

資料館日誌抄

平成8年

9月11日 企画展「創られた風景創り出す風景
～農のあるまちづくり～」

(10月20日まで)

9月13日 宮代町立百間小学校写生会(129名)

9月27日 旧加藤家中秋の名月お月見会

10月 2日 金原遺跡発掘調査(11月13日まで)

10月 8日 かやぶき民家で昔話を聞く会

10月19日 農業講座「宮代のおいしいお米」

(主催 農政商工課)

10月20日 ワラ細工教室

10月23日 特別展 宮代の俳諧「多少庵の人々」

(12月8日まで)

12月11日 企画展「みやしろのお正月

～祝いと願い」(1月26日まで)

平成9年

1月12日 体験学習講座「ハナとまゆ玉団子作り」

1月16日 宮代町立百間小学校見学(130名)

1月23日 “ (“)

1月29日 企画展 「ひなまつり」(3月23日まで)

2月16日 郷土史講座 『宮代の歴史にみる

(5回講座)

最先端文化』

(3月16日まで)

「古代の鉄器文化」

「宮代と鉄道」

「西光院と阿弥陀三尊像」

「近代の幕開け」

「町内見学会」

宮代町郷土資料館だより 第8号

発行年月日 平成9年2月1日

編集発行 宮代町郷土資料館

☎345

埼玉県南埼玉郡宮代町

字西原289番地

☎0480 34 8882